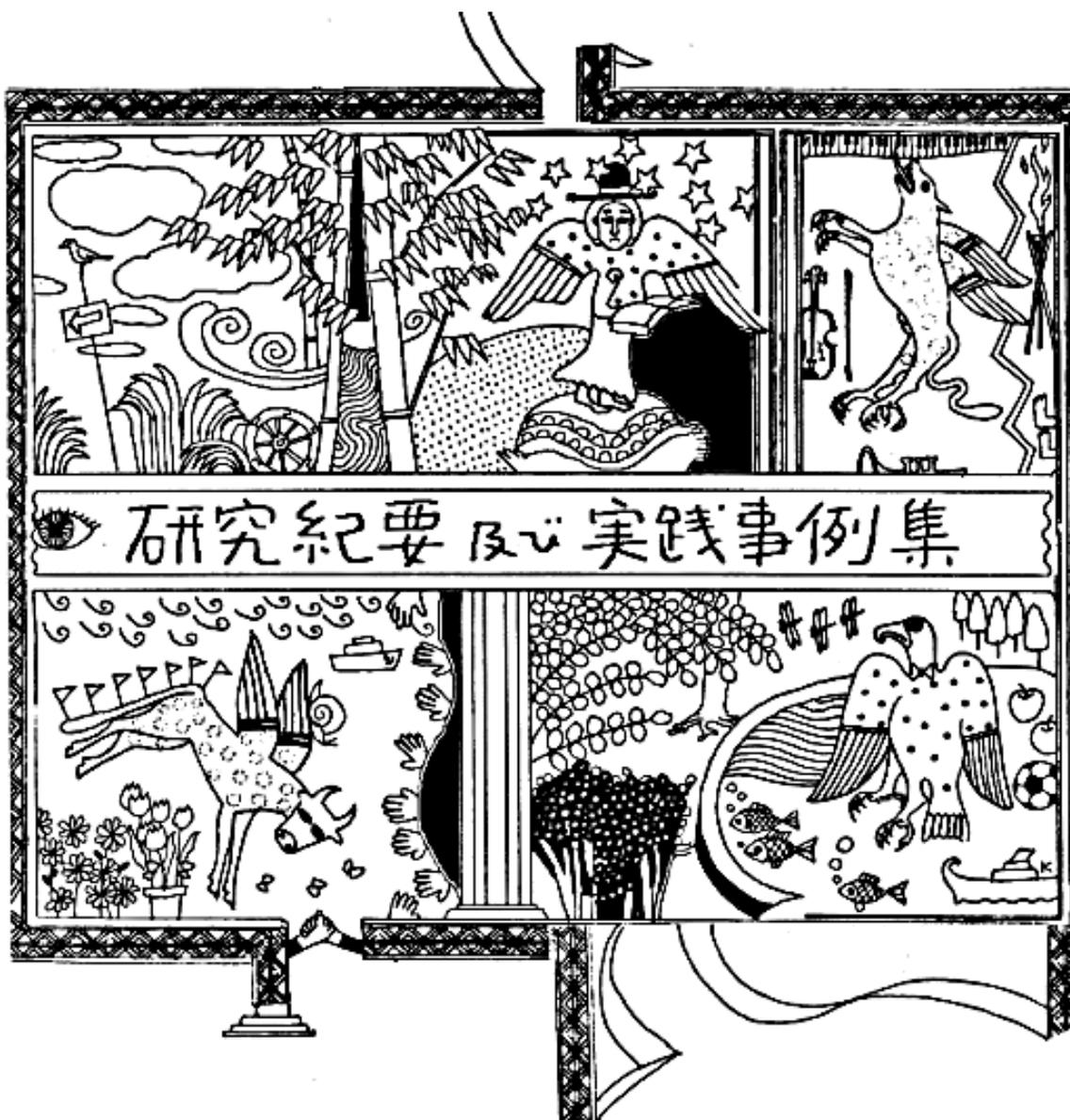


令和5年度



京都府中学校 道德教育 研究部会

「研究紀要及び実践事例集」

【目次】

- p.1 あいさつ
- p.2 令和5年度 道德研究部会 役員名簿
- p.3-4 令和5年度 道德研究部 活動報告及び成果と課題
- p.5-6 令和5年度 道德部会たより
- p.7-18 各地域中教研の活動まとめ
- p.19-35 実践事例集
- (1) 道德教育研究大会 公開授業指導案
 - (2) 道德教育研究大会 研究発表資料

あいさつ

令和5年度京都府中学校教育研究会道德教育研究部会「研究紀要及び実践事例集」の発刊に際し、一言ごあいさつとお礼を申し上げます。

当研究部会におきましては「主体的に深く考える道德科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～」の研究主題のもと、令和3年度近畿中学校道德教育研究大会京都大会における研究成果を継承しつつ「道德科の指導におけるさらなる質的改善」を目指して令和5年度京都府中学校教育研究会道德教育研究大会を舞鶴市立和田中学校において開催しました。

当日は、全学級 TT での道德科授業の公開、ワールドカフェ形式による府下6支部の特徴的な実践発表、授業改善や評価の工夫等へと導く羅針盤となる本府独自に実施している道德アンケート分析・反映に係る研究発表、さらには浅見前調査官様によるご講演と、生徒たちからの「海軍コーヒー」の温かなおもてなしなど、府の内外からお迎えした130名の皆様とともに、これからの道德について学ぶ、贅沢な午後のひとときとなりました。

和田中学校の公開授業は大変すばらしく、特に主発問から問い返しによる深まりや、授業の展開に係る TT による連携などに参加者から大きな反響を頂きました。また、浅見先生のご講演は、教科としての道德のみならず、道德教育全般のかなり幅広い分野を押さえて頂き、大変ためになりました。

目まぐるしく変化する先の見通せない時代にあって子どもたちが自分自身の強さ・弱さと向き合い、適切に人と関わり、より良く生きることや美しいもの・崇高なものを探究するうえで、「全ての学校教育活動を通じて行う道德教育と、その要となる道德科の授業」が果たす役割は、計り知れません。

将来、自立した社会人として幸せに暮らせるよう、子どもたちの命を守り、子どもたちがより良く社会に旅立つための道德的価値把握に係る並々ならぬ研鑽と教科・領域全般への采配に励まれる各支部の先生方とともに、引き続き「語り合い学び合う道德科の授業」づくりを推進いたします。

本研究会の活動推進にあたり、京都府教育委員会、京都府総合教育センターをはじめ、多くの皆様に多大なるご支援、ご指導、ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和6年3月

京都府中学校教育研究会
道德研究部会長 福本 浩介(舞鶴市立城南中学校長)

京都府中学校教育研究会

令和5年度 道德教育研究部会 役員名簿

	氏名	学校	TEL/FAX
部会長	福本 浩介	舞鶴市立城南中学校(舞鶴)	0773-75-0137/2351
副部会長	菊井 雅志	宇治市立広野中学校(宇治)	0774-39-9170/9171
事務局			
事務局員	越川 聡	舞鶴市立城南中学校(舞鶴)	0773-75-0137/2351
	濱崎早智	南丹市立八木中学校(南船)	0771-42-2009/4225
	二谷亮輔	舞鶴市立和田中学校(舞鶴)	0773-62-0507/0544

顧問 - 地域部長 (専門研究員)

地域	校数	顧問氏名	学校名	電話番号	地域部長氏名	学校名	電話番号
相楽	10	山下 智義	山城	0774-86-2001	立入 彩子	山城	0774-86-2001
綴喜	9	中井 達	田辺	0774-62-0021	綿野 広樹	男山東	075-982-8880
城久	6	伊家 直宏	西城陽	0774-53-1600	松本 岳史	久御山	075-631-7207
宇治	10	菊井 雅志	広野	0774-39-9170	佐飛 泰成	宇治	0774-39-9158
乙訓	9	永砂 正弘	長岡第二	075-954-5330	佐飛 紀子	勝山	075-921-1106
亀岡	8	金田 浩樹	亀岡	0771-22-0165	六島 悠喜	東輝	0771-24-6005
南船	9	平井 祐子	殿田	0771-72-0031	濱崎 早智	八木	0771-42-2009
綾部	6	北山 宏司	上林	0773-54-0098	松村 隼也	上林	0773-54-0098
福知山	10	笹木 大照	桃映	0773-22-3220	田中 昭徳	日新	0773-27-3520
舞鶴	7	金子かおり	和田	0773-62-0507	越川 聡	城南	0773-75-0137
与謝	6	西村 和也	宮津	0772-22-4305	太田 健策	江陽	0772-43-1162
京丹後	6	起須 周平	弥栄	0772-65-2554	辻 沙佑美	網野	0772-72-1030

京都府教育庁指導部学校教育課 担当 指導主事 中村 一也

京都府総合教育センター 担当 研究主事兼指導主事 岩崎 佳子

令和5年度 京都府中学校教育研究会道德教育研究部会 報告

1 研究主題

主体的に深く考える道德科の創造 ～語り合い学び合う授業を目指して～

2 研究活動の概要

(1) 事務局会議、事務局・専門研究員会議及び地域部長会

期 日	事務局・研究員会議	地域部長会	場 所
7月10日	第1回会議	第1回会議	亀岡市交流会館
10月2日	第2回会議	第2回会議	口丹波勤労者福祉会館
11月13日	第3回会議	第3回会議	舞鶴市立和田中学校
1月30日	第4回会議	第4回会議	亀岡市交流会館

「運営」「調査研究」の2本柱による研究推進 及び 広報活動

ア 広 報 道德教育研究部会だより（年1回）の発行

府中研道德研究会研究紀要及び実践事例集の発行

イ 調査研究 道德教育に関する取組状況についてアンケート内容の集約

近道中道德研究大会・府中研道德研究大会のレポート作成および報告

ウ 運 営 府中研道德研究大会の案内・運営

府中研道德研究大会研究紀要の発行

3 研究組織

【事務局・専門研究員】 部会長 福本浩介（城南） 副部会長 菊井雅志（広野）

事務局長 越川聡（城南） 事務局員 濱崎早智（八木） 二谷亮輔（和田）

【地域部長・専門研究員】 立入彩子（山城） 綿野広樹（男山東） 松本岳史（久御山）

佐飛泰成（宇治） 佐飛紀子（勝山） 六島悠喜（東輝）

松村隼也（上林） 田中昭徳（日新） 太田健策（江陽）

辻沙佑美（網野）

○ 京都府教育庁指導部学校教育課 指導主事 中村一也

○ 京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 岩崎佳子

4 成果と課題

(1) 成果

ア 研究活動を通じて、各地域とのつながりを深め、府教育委員会・府総合教育センターの指導のもと、継続的・組織的な活動を実施できた。

イ 11月22日（水）に開催した研究大会においては、遠方にも関わらず100名を超える参観者を迎え、盛況のうちに終えることができた。

ウ 府中研研究大会研究発表や近畿大会分科会報告を通じて、研究主題の「主体的に深く考える道德科の創造」について研究を推進し、その成果を広く公開することができた。

(2) 課題

ア 研究大会における成果をより多くの学校に広げ、実践に生かす。

イ 道德教育の「質的転換」を推進するリーダーの育成並びに各校・地域の実態に合わせたよりよい実践的な研究をさらに深める。

ウ 主体的に深く考える道德科の授業における授業形態（TT道德、輪番制の今後の可能性など）やICT機器の活用方法等、幅広く研究を進める。

エ 道德アンケートの内容の検討および継続的な調査・研究を進める。

5 事業報告 「令和5年度 京都府中学校教育研究会 道徳教育研究大会」

- (1) 研究主題 主体的に深く考える道徳科の創造
～語り合い学び合う授業を目指して～
- (2) 期 日 令和5年11月22日(水) 舞鶴市立和田中学校
- (3) 会 場 舞鶴市立和田中学校
- (4) 主 催 京都府中学校教育研究会道徳教育研究部会・舞鶴市立和田中学校
- (5) 後 援 京都府教育委員会・舞鶴市教育委員会
- (6) 時 程

12:35 13:00 13:50 14:00 14:35 14:45 15:00 15:20 15:35 15:45 16:45 17:00

受付	公開授業 3学年公開	移動	実践交流	休憩	全 体 会						
					開 会 行 事	研 究 発 表	指 導 講 評	休 憩	講 演	閉 会 行 事	

(7) 内 容

- ア 公開授業 TTによる道徳の授業を3学年一斉公開
- イ 実践交流 府内6地域の実践報告をワールドカフェ形式で交流
- ウ 全体会
 - ① 研究発表 「特別の教科『道徳』の質的転換をめざして
～京都府下全校でのアンケートをもとに～」
 - ② 指導講評 京都府教育庁指導部学校教育課指導主事 中村 一也
 - ③ 講 演 演題「未来を創る子供たちの道徳性を養う道徳教育」
講師 十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授
文部科学省初等中等教育局教育課程課前教科調査官 浅見 哲也 氏

【研究大会事後アンケートより抜粋】

- ・(公開授業担当校では) TTを常時行なっておられるのが衝撃的でした。中心発問について深く掘り下げておられ、繰り返し発問の大切さに改めて気づくことができました。生徒たちがなぜその考えに至ったのか、具体的にどう考え、感じているのかを深めていける授業を私もできるようになりたいと強く思いました。
- ・(研究発表を聞き) タブレットの活用を推進していきたいと思った。意見の交流が簡単になった一方で、じっくり考えられるような時間も必要で、たくさんの意見に触れるだけでなく、そこから深めていけるような流れを作ることも大切だと感じた。
- ・(実践交流で) ワールドカフェ方式で、少人数で近い距離で話が聞けたのでとてもよかったです。15分ではなくもう少し時間があれば、より交流が深まったと思います。
- ・会場校である和田中学校の生徒・教職員の皆様から、おもてなしの心遣いをたくさん学びました。コーヒーのサービスがある府中研に参加するのは初めてで、道徳の研究大会を行うにふさわしい「まごごころ」を感じ、たいへん感銘を受けました。



京都府中学校教育研究会

令和5年度 道徳教育研究部会だより No.1

事務局 舞鶴市立城南中学校

TEL 0773-75-0137

FAX 0773-75-2351

令和5年度 京都府中学校教育研究会 道徳教育研究大会 報告

研究テーマ

「主体的に深く考える道徳科の創造」 ～語り合い学び合う授業を目指して～

日程 令和5年11月22日(水)

公開授業 3学年公開	実践交流	全体会				
		開会行事	研究発表	指導講評	講演	閉会行事

公開授業 舞鶴市立和田中学校

1年1組, 3組
「言葉の向こうに」
(相互理解、寛容)

1年2組
「撮れなかった一枚の写真」
(よりよく生きる喜び)

2年1組, 3組
「桃太郎の鬼退治」
(相互理解、寛容)

3年1組
「二通の手紙」
(遵法精神、公德心)



実践交流

TTによる道徳の授業を3学年一斉で公開

地域	テーマ	報告者
A 亀岡	「語り合い、学び合う道徳科の授業を目指して」 ～亀岡ブロック各校の取組より～	亀岡市立東輝中学校 教諭 六島 悠喜
B 南丹・船井	「地域の特色を生かした道徳教育」 ～南丹・船井地域の取組を中心に～	南丹市立八木中学校 教諭 濱崎 早智
C 綾部	「小中一貫の視点で目指す道徳教育の充実」 ～「考え、議論する道徳」の実現に向けて～	綾部市立綾部中学校 教諭 船越 美里
D 福知山	「自己を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成」 ～学び合い、つながり合い、深め合う授業として～	福知山市立日新中学校 教諭 田中 昭徳
E 与謝	「語り合い学び合う授業作りの研究を深める」	与謝野町立江陽中学校 教諭 太田 健策
F 京丹後	「よりよい評価に向けて市全体で取り組んできたこと」	京丹後市立網野中学校 教諭 辻 沙佑美

講演

「未来を創る子供たちの道徳性を養う道徳教育」

十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科教授

文部科学省初等中等教育局教育課程課前教科調査官 浅見 哲也 様

1. 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳

今、求められている道徳科の授業

2. 令和の日本型学校教育

…全ての子供たちの可能性を引き出し、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

- ・学習指導要領の着実な実施
- ・ICTが学校教育を支える基盤的なツール



道徳科の授業においてICTが
どう生徒の学びを手助けしていくのか?

(1) 活用例

導入時の実態や問題の提示(画像や映像、グラフ等)…教師用端末

展開時の教材の提示(画像や映像等)…教師用端末

自分の考えをもつ(ICT端末に示す)…生徒用端末

他者の考えを知る(表やグラフ等を用いてICT端末に共有する)…教師用・生徒用

自己を見つめる(ICT端末に蓄積する)…生徒用端末

終末時の生徒の様子や外部の方の言葉の提示…教師用端末

アナログの活動(対話)も
大切に!

(2) ICT端末の利点

①全員の考えが共有できるからこそ、子供の考えを教師が意図的に取り上げることができる。

②一人一人の子供の心の可視化ができるので、少数派の意見を取り上げることができる。

- ・「二項対立」の陥穽(かんせい・おとしあな)に陥らない。
- ・どちらのよさも適切に組み合わせていかしていく。
- ・実践とICTとを最適に組み合わせる。ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意。
- ・対面指導と遠隔、オンラインのハイブリッド化。学校の「新しい生活様式への対応」

(3) 今後の道徳科におけるICT端末活用の課題

①ICT端末の活用等における一人一人の子供の心の可視化

②ICT端末の活用により生み出された時間の有効活用



参加者の感想 (一部抜粋)

・TTの形式の授業を初めて参観させていただいて、良い刺激になりました。

生徒達が50分間考え続けている姿に感動を受けました。

・なぜ、道徳を勉強するのかという問いを自分の学校にも問うことができ、意識向上につながりました。

・学校として「授業で大切にしたいこと」を共有しているのは大切だなと感じました。学校全体で1つの方向性に向かって指導を進めることで、一体となった指導につながると感じました。

たくさんのご参加、ありがとうございました。

各地域のまとめ

- (1) 相楽地域
- (2) 綴喜地域
- (3) 城陽・久御山地域
- (4) 宇治地域
- (5) 乙訓地域
- (6) 亀岡地域
- (7) 南丹・船井地域
- (8) 綾部地域
- (9) 福知山地域
- (10) 舞鶴地域
- (11) 与謝地域
- (12) 京丹後地域

令和5年度 相楽地域 活動のまとめ

研究部	相楽地域中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	木津川市立山城中学校 校長 山下 智義
			部長	木津川市立山城中学校 教諭 立入 彩子
月	日	場 所	活 動 内 容	
6	14	山城中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の決定 ・各校の取組交流 	
12	6	精華南中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・府中研報告 ・研究授業 ・研究協議(精華南中学校第2学年1組) 	
2	14	山城中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・府中研報告 ・研究部のまとめ、来年度に向けて 	
<p>1 本年度の研究主題</p> <p style="text-align: center;">よりよく生きる力を育む道徳教育</p> <p style="text-align: center;">～ともに語り合い、ともに考える『道徳科』の授業の創造～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がよりよく生きる力を育むことができる魅力的な教材の開発や活用、及び指導方法の工夫改善と評価 ・諸計画の見直しと校内研修の充実 <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精華南中学校で研究授業を行うことができ、生徒が主題に迫るための発問の工夫や、考え議論する道徳のあり方について研究を深めることができた。 ・各校での実践交流を行うことができ、縦割り道徳(学年を超えての道徳授業)など新たな指導方法を模索することができた。 ・府中研の研究発表を主任会で報告することで、令和4年度のアンケート結果や全体の傾向の把握を主任会で共有することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせた授業展開や発問の工夫改善を進め、研究主題に迫れる内容を深めていく。 ・各校の校内研修をさらに充実させ、「考え、議論する」道徳科の創造に向けての工夫改善を深めていく必要がある。 				

令和5年度 綴喜地域 活動のまとめ

研究部	綴喜地方中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	京田辺市立田辺中学校 校長 中井 達
			部長	八幡市立男山東中学校 教諭 綿野 広樹
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	22	京田辺市立 田辺中学校	○第1回主任会 ・部長、副部長の決定 ・年間指導計画の作成	
10	24	八幡市立 男山東中学校	○第2回主任会 ・公開授業 ・各校の校内研の内容と教科書外の資料を交流	
<p>1 本年度の研究主題 「よりよく生きる力を育む道徳教育」 ～ともに語り合い、ともに深く考える「道徳科」の授業の創造～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある授業の創造に向けて、教科書を用いた効果的な授業の展開について研究を進める。 ・板書について、具体的な方法の交流や研究を進める。 ・各校の具体的な実践報告や生徒の実態にあった教材の交流、研究を進める。 ・視聴覚教材の交流を進める。 <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の、綴喜の研究主題を府の研究主題に合わせることを決めた。 ・今後の研究授業の順番を決めた。 ・校内研でしていることや、それぞれの学校で実践されている教科書以外の資料を交流した。 ・校内研究授業を実施できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域部長が軸となり、研究の進捗状況について共通理解を図る必要がある。 				

令和5年度 城陽・久御山地域 活動のまとめ

研究部	城陽久御山地域 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	城陽市立西城陽中学校 校長 伊家 直宏
			部長	久御山町立久御山中学校 教諭 松本 岳史
月	日	場 所	活 動 内 容	
7	6	西城陽中学校	副部長校、研究授業校 決定 事業計画の確認、各校の実践交流	
11	1	西城陽中学校	研究授業の指導案について意見交流 各校の実践交流	
12	6	南城陽中学校	研究授業の参観及び事後研究会	
1	10	西城陽中学校	令和5年度活動のまとめ 各校の実践交流 次年度の引き継ぎ事項の確認	
<p>1 本年度の研究主題 主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い学び合う授業を目指して～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を通して、ねらいを達成するための中心発問ができるよう、発問の内容やそれまでの流れを工夫する。 ・各校の実践した資料、指導案、道徳通信等から、自校での更なる道徳教育を発展させていく。 <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業「二人の弟子」を通して、生徒がねらいに迫るために、自分の立場に置き換えて考えられるように、中心発問や授業展開を工夫することができた。 ・各校の実践を交流し、自校に持ち帰ることができた。 ・ICTを授業の中で活用するメリット・デメリットについて考えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせた発問や授業展開を工夫していく。 ・ICTの活用方法を研究していく。 ・各校の実践を交流することはできたが、深めることができなかった。 				

令和5年度 宇治地域 活動のまとめ

研究部	宇治市中学校教育研究会 道徳部		顧問	宇治市立広野中学校 教頭 菊井 雅志
			部長	宇治市立宇治中学校 教諭 佐飛 泰成
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	10	広野中学校	第1回主任会 ※各校の交流、研究主題の設定、総会の内容確認 研究授業校の決定 など	
6	21	広野中学校	第2回主任会 ※各校の交流、各校での研修内容について交流 など	
11	22	舞鶴市立和田中学校	※府中研研究大会に参加	
11	29	広野中学校	第3回主任会 ※府中研の授業参観の交流及び宇治地域でどのように 取り入れられるか議論	
1	24	広野中学校	第4回主任会 ※今年度の取組の総括 ※次年度の引継ぎ事項の確認 ※次年度の地域部長の選定 等	
<p>1 本年度の研究主題 『主体的に深く考える道徳科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～』</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <p>① 各校の実践内容を学ぶことで、自校に持ち帰り、生徒自身の心に訴える道徳教育の実践をしていく。</p> <p>② コロナ後の教育課程に基づいた「別業」の改訂を検討する。</p> <p>③ 府中研研究大会の公開授業や講演を通して、宇治地域全体の道徳の授業資質の向上を図っていくために各校の実態に応じた議論をする。</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>① 府中研の研究大会にたくさんの学校(7校/10校)が参加をされ、大会後の主任会で、宇治地域の道徳教育の向上していくための議論をすることができ、各校でできることやできないことの精査ができた。</p> <p>② 各校の取り組み内容を確認することで、自校でのできることや取り入れたいことを確認することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>① 「別業」の内容を検討し、改訂をすることができなかった。</p> <p>② 府中研に参加し、その内容を検討することが中心となり、道徳科の研究主題に迫れる内容が薄かった。</p>				

令和5年度 乙訓地域 活動のまとめ

研究部	乙訓地方中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	長岡京市立長岡第二中学校 校長 永砂 正弘
			部長	向日市立勝山中学校 教諭 佐飛 紀子
月	日	場 所	活 動 内 容	
6	8	長岡第二中学校	第1回道徳教育研究部会 ・本年度の研究活動方針と活動計画の確認	
2	13	勝山中学校	向日市「特別の教科 道徳」実践交流会 ・研究授業、事後研修、実践交流	
2	16	長岡第二中学校	第2回道徳教育研究部会 ・中学校教育課程京都府研究大会の報告 ・近畿および、京都府中学校道徳教育研究大会の報告 ・乙訓地方中学校版の全体計画(別業)の作成	
<p>1 本年度の研究主題 「学習者である生徒の側から道徳の学びを考える授業の実践」</p> <p>2 本年度の研究内容 ・各道徳の授業において、授業改善の視点を持った「ねらい」の明確化を図る。 ・各校で作成した全体計画(別業)をもとに、乙訓地方の中学校で全体計画の統一を図る。</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画(別業)について各校で分担して担当学年分をとりまとめるために、各校の道徳推進教師による校内研修会を実施し、全体計画についての理解を深めた上で、乙訓版の全体計画を作成することで全体計画の理解を深めることができた。 ・京都府中学校教育研究会道徳教育研究大会へ積極的に参加し、「考え、議論する」を視点とした授業改善の視点を学ぶことができた。 ・上記の視点を踏まえた授業公開を行い、多くの部員が参加することができた。また、今年度の各校の実践を交流して、「考え、議論する」道徳の授業改善の視点について理解を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する」道徳を視点とした公開授業を積極的に実施し、授業の質的転換を目指すことを柱とした実践的研究を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ア 中心発問の精選 イ 生徒の心を揺さぶるための問い返しの工夫 ウ ICTを活用した授業改善 例:「生徒の考えを意図的に取り上げる」/「一人一人の生徒の心の可視化」 ・学習指導要領における道徳科35時間の確実な実施と「乙訓版の全体計画」の実践に基づく見直しを図る。 				

令和5年度 亀岡地域 活動のまとめ

研究部	亀岡地域中学校教育 研究会道德教育研究部		顧問	亀岡市立亀岡中学校 教頭 金田 浩樹
			部長	亀岡市立東輝中学校 教諭 六島 悠喜
月	日	場 所	活 動 内 容	
6	20	東輝中学校	第1回道徳教主任会 今年度の活動および研究方針の確認 地域副部長の決定 各校の実践交流	
11	2	亀岡川東学園	第2回道徳主任会 公開授業(小学6年生) 事後研究会 教育課程京都府研究大会の報告について 京都府道徳研究大会のレポート内容の確認 各校の実践交流	
1	19	東輝中学校	第2回道徳主任会 各校の実践交流 予算決算について確認 今年度総括・次年度申し送り事項確認・検討	
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い、学び合う授業を目指して～」</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各校での実践を交流し、効果的な道徳の授業の在り方について検討する。 ・各校で道徳教育の推進、充実に向けた研修や指導体制の工夫に取り組む。 ・各校の取組を共有・活用・蓄積するために、年度末に実践資料集を発行する。 ・学習指導要領全面実施に伴い、これまで蓄積してきた研究をさらに深め、充実させる。 <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローテーションを取り入れているところが多く、他の教員の授業を見る機会につながっている。 ・夏休みに研修を行い、導入の入り方や、今一度、道徳の指導要領の見直しを行っている学校もあった。 ・ワークシートでの振り返りを実施し、生徒たちに道徳の授業の振り返りの機会があった。 ・今までの道徳の積み上げで、府大会で発表することができたので、これからも実践交流を積み上げていく。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローテーションの意義を考え直さなければいけないという意見があった。メリット・デメリットをしっかりと見通した上で実践していくことが必要である。 ・京都府道徳研究大会の参加を各校1名としたのにも関わらず、亀岡ブロックの参加は少なく、道徳教育についての意識を亀岡全体で高めていく必要がある。 				

令和5年度 南丹・船井地域 活動のまとめ

研究部	南丹・船井 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	南丹市立殿田中学校 教頭 平井 祐子
			部長	南丹市立八木中学校 教諭 濱崎 早智
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	26	京丹波町立蒲生野中学校	第1回主任会 ・研究主題・方針・年間活動計画等の策定	
10	5	南丹市立園部中学校	第2回主任会 ・指導案持ち寄り、事前授業の交流 ・府大会、府レポート発表について	
2	2	南丹市立殿田中学校	南船道徳教育研究授業、第3回主任会 ・研究授業「人って、本当は？」2年(殿田中学校) ・研究協議、講演 ・今年度の総括等	
<p>1 本年度の研究主題 「よりよい生き方について、ともに考える「道徳科」の授業の創造に向けて」 ～子ども・教師・学校・保護者・地域のつながりの中で～</p> <p>2 本年度の研究内容 (1) 授業研究会などを通して、道徳的価値の自覚を深める授業展開を構想する。 (2) 府レポート発表に向けて、方向性を持って取り組む。</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を設定し、各校でねらいに沿った指導案を作成し、事前授業を実施した。 ・事前授業の結果(指導案・生徒の反応)を持ち寄り、「授業作り」について論議し、研究授業のねらいに迫る工夫を探ることができた。 ・昨年度にまとめたレポートの発表にあたり、各校での地域道徳の取組を交流し、府大会で実践交流として発表することができた。 ・多くの先生が府大会に参加し、道徳教育について研修することができた。 ・各校での道徳教育の推進・充実に向けた研修や指導体制の工夫が進んだ。 ・地域道徳として、地域と密に連携し、活動を進める学校が見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業展開・発問・評価等について、地域の課題に即し道徳研究を発展・充実させる。 ・「地域道徳」の率先した取り組みを参考にして、各校の実態に即した「地域道徳の取組」を南船全体のものにするべく試行していく必要がある。 				

令和5年度 綾部地域 活動のまとめ

研究部	綾部市学校教育研究会 道徳部(中学校)		顧問	綾部市立上林中学校 校長 北村 宏司
			部長	綾部市立上林中学校 教諭 松村 隼也
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	10	中筋小学校	春季研究会(小・中合同開催) ・今年度方針、年間活動計画の確認 ・ブロックの実践交流	
8	18	綾部市中央公民館	夏季研究会 ・講演(舞鶴市立和田中学校より先生方を招いて) ・府中研に向けての参観の視点、発問の検討など	
11	22	舞鶴市立和田中学校	府中研への参加 ・実践発表「小中一貫の視点で目指す道徳教育の充実」 ～「考え、議論する道徳」の実現に向けて～ 綾部市立綾部中学校 教諭 船越 美里	
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考え、議論する道徳科の創造」 ～語り合い学び合う授業を目指して～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「主体的、対話的で深い学びのある授業」の研究 ・ 府中研の参加に向けての事前研修、当日の実践発表への参観 <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中合同で会議をもつことで、小学校も中学校も授業づくりについて学びを深め、小中一貫教育を意識して取組を進めることができた。 ・ 実践交流を行うことで部員が授業で大切にしていることや各校の生徒の様子、授業づくりで悩んでいることなどを共有することができた。 ・ 夏季研究会では、和田中学校が総合的な学習の時間と道徳教育の二本柱で非認知能力を育みながら学校づくりを進めている点や、生徒の心が揺れ動くような発問や対話のある授業を大切にしている点など、多くのことを学ぶことができた。 ・ 京都府中学校教育研究会道徳教育研究大会(舞鶴市立和田中学校で開催)に参加し、夏季研究会で事前に学習、検討した対話的な道徳科の授業づくりについてさらに学びを深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した道徳科の授業づくりについて学ぶ機会を作れたらという声もあったが、詳しく学ぶことができなかった。今後は、どのような機能をどのような場面で使うと効果的か、実践について学ぶ機会を作りたい。 				

令和5年度 福知山地域 活動のまとめ

研究部	福知山地域 中学校道徳科教育研究部		顧問	福知山市立桃映中学校 教頭 笹木 大照
			部長	福知山市立日新中学校 教諭 田中 昭徳
月	日	場 所	活 動 内 容	
8	19	福知山市立 日新中学校	市中学校教育研究会 夏季全員研究会 【講 義】京都府中丹教育局指導主事 【事例視聴】文部科学省授業映像 【研究協議】 ・道徳科の授業と評価に関する悩みや疑問 ・自己（自校）の授業改善に向けた取組 ・教科書教材の具体的な活用	
11	22	舞鶴市立 和田中学校	府中学校教育研究会道徳教育研究大会への参加 公開授業・実践交流・研究発表・指導講評・講演	
1	19	福知山市立 日新中学校	市中学校教育研究会 第2回研究部会 【研究発表】府下全校でのアンケート結果の分析 【実践交流】各校の授業と評価の取組 【ま と め】今年度の研究活動の振り返り	
<p>1 本年度の研究主題 自己を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成 ～学び合い、つながり合い、深め合う授業を通して～</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季全員研究会では、講義や事例視聴、研究協議など内容を工夫し、道徳科の授業と評価の改善・充実に向け、各校道徳教育推進教師の意識高揚を図った。 ・第2回研究部会では、府中学校研究大会における研究発表や各校の実践・取組の交流により、今後の授業と評価の参考となる情報を共有できるようにした。 <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する道徳」への質的転換を目指した授業改善の方向性について、市中学校全体で共通理解を図ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校における授業改善が一層推進されるよう、次年度は市中学校教育研究会主催の授業研究会を実施する必要がある。また、学校全体で組織的かつ計画的に評価の工夫・改善に取り組めるよう実践・取組の共有化を図る。 				

令和5年度 舞鶴地域 活動のまとめ

研究部	舞鶴市中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	舞鶴市立和田中学校 教頭 金子 かおり
			部長	舞鶴市立城南中学校 教諭 越川 聡
月	日	場 所	活 動 内 容	
4	19	城南中学校	道徳教育部部会 ・本年度の活動方針、研究計画及び事業計画の確認	
5	29	Teamsリモート	第一回主任会 ・研究大会の概要確認	
6	19	和田中学校	第二回主任会 ・研究大会の役割分担	
7	25	和田中学校	第三回主任会 ・公開授業指導案の原案の検討(授業者と合同)	
10	20	和田中学校	第四回主任会 ・公開授業指導案の実践交流、研究大会の準備	
11	13	和田中学校	地域部長会主任会合同会議(第五回主任会) ・研究大会の運営の確認	
11	21	和田中学校	前日準備(会場設営)	
11	22	和田中学校	道徳教育研究大会 ・大会運営及び授業公開	
1	26	和田中学校	第六回主任会 ・研究大会総括、今年度のまとめ	
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考える道徳科の創造 ～語り合い学び合う授業を目指して～」</p> <p>2 本年度の研究内容 (1) 研究大会に向けて指導案の検討を通じた授業改善 (2) 研究大会を通して指導方法や授業実践の研究 (3) ICTの効果的な活用</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田中学校の授業公開は大変意義深く、生徒の意欲や発言をひき出すための工夫や授業改善について学ぶ機会となり、その実践を各校に広げることができた。 ・主任会として指導案の検討や原案の実践を行ったことで、主発問の工夫や問い返しについての研究を推進することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究大会における舞鶴地域の参加者が少数であった。各校とも校務等の事情があるが、広報活動を積極的に行うなど、主任より研究大会への参加を呼び掛ける。 ・主発問や問い返しについては、引き続き研究を推進する。また、TT道徳や輪番制道徳など授業形態についても研究を進める。 				

令和5年度 与謝地域 活動のまとめ

研究部	与謝地方 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	宮津市立宮津中学校 教頭 西村 和也
			部長	与謝野町立江陽中学校 教諭 太田 健策
月	日	場 所	活 動 内 容	
4 6	19 22	加悦中学校 橋立中学校	第1回部会 第2回部会	<ul style="list-style-type: none"> ・活動方針、事業計画、予算計画について ・授業研究会「尊い玉子」 秦 真悟 教諭（橋立中学校） ・実践交流
8	18	宮津中学校	第3回部会	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の評価の交流 ・地域部長会の報告
10	24	加悦中学校	第4回部会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会「リクエスト」 安達 陽介 教諭（加悦中学校） ・実践交流
2	1	宮津中学校	第5回部会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめ ・予算計画の作成
<p>1 本年度の研究主題 「主体的に深く考える道徳科の創造～語り合い学び合う授業を目指して～」</p> <p>2 本年度の研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会を通じた授業づくりについての研究 ・実践交流（各校で実践した資料・指導案の交流） <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を通して、語り合い学び合う授業について研究を深めることができた。 ・京都府中学校道徳研究大会に参加し、公開授業を参観したり、講演を聴かせていただくことで、道徳の授業の進め方や道徳教育についての理解を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や購入した書籍を活用しながら、語り合い学び合う授業についての研究を深める。 ・道徳の授業を実践する中で、ICTをどのように活用するかを継続して検討していく。 				

令和5年度 京丹後地域 活動のまとめ

研究部	京丹後市 中学校教育研究会 道徳教育研究部		顧問	京丹後市立弥栄中学校 校長 起須 周平
			部長	京丹後市立網野中学校 教諭 辻 沙佑美
月	日	場 所	活 動 内 容	
5	8	峰山中学校	第1回部会 役員体制、本年度の研究テーマ、活動計画等の決定	
8	30	網野中学校	第2回部会 府中研地域部長会の報告、教育課程研の伝達講習 評価について振り返りと今年度の方向性の確認 研究授業の事前研究	
10	26	峰山中学校	第3回部会 研究授業・事後研究会 C-(10)「傘の下」峰山中学校 山田 友希 教諭 府中研地域部長会の報告	
12	19	網野中学校	第4回部会 府中研研究大会についての報告 評価についての確認と評価評定基本表の見直し 今年度の研究についてのまとめ	
<p>1 本年度の研究主題 よりよい生き方を育む道徳教育 ～語り合い、深く考える「道徳科」の授業の創造～</p> <p>2 本年度の研究内容 (1)「語り合い、深く考える」授業づくりに向けた研究授業 (2)「令和6年度版評価・評定基本表」作成に向けた評価の振り返り、方針等の確認 (3) 実践交流</p> <p>3 本年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回部会では研究授業のための事前研究を行い、意見を出し合いながら授業づくりをすることができた。事後研究会では、授業場面で教師がどのような働きかけをすると良いかについても考えることができた。これらの学びを各校の実践にも役立てることで、授業改善にもつながった。 ・府中研研究大会では、京丹後全体でよりよい評価を目指し取り組んできたことを他地域や他校種の先生にも発信することができた。この機会を通して、評価についての研究の意義を再確認できたことも良かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究授業は、各校道徳主任以外の参加が難しく、参加人数が限られていた。 ・他地域での実践や研修等で得た学びを部会で交流する機会が少なかった。 ・不登校生徒や別室登校の生徒等、評価に当たって配慮すべき生徒に対する評価方法や記載内容の在り方等の検討を重ねていく必要がある。 				

実践事例集

令和5年度京都府中学校教育研究会
道徳教育研究大会

- (1) 公開授業指導案
- (2) 研究発表

特別の教科道徳学習指導案

指導者名 T1 井上 侑
T2 大戸 充晴
T3 西垣亜紀子
(個別支援)

- 1 対象 第1学年1組、3組 計20名
- 2 日時 令和5年11月22日(水) 第5校時 13:00~13:50
- 3 場所 1年1組教室
- 4 主題名 他者から謙虚に学ぶ【相互理解、寛容】(内容項目 B-(9))
- 5 教材名 「言葉の向こうに」(「中学道徳1 きみがいちばんひかるとき」光村図書より)

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」では、【内容項目 B相互理解、寛容】について、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」と示されている。社会の中で生きていくうえで色々な意見があることを理解し、様々な考えや立場を尊重し、お互いに認め合って行動する実践意欲と態度を育てたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、違いを認めることがよいことであるという価値観はもっているものの、いざ立場の違う人がいた時は関わらないようにしたり、自分の意見は曲げないようにしたりするなどの行動をとり、互いの違いから学ぶという行動をとる生徒は多くはない。他者の意見を認め、素直に受け入れる謙虚さを身に付けることで、他者から学んでいくことがよりよい人間関係の構築につながることに気付かせたい。

(3) 教材について

ある中学生が SNS でのトラブルを通して、立場の違うものに関わる上で大切なことに気付く話である。主人公は自分の応援している選手が非難されている状況を見て、はじめは何とか助けたいと思って発信している。しかし、いつのまにか応援している選手のための発信ではなく、反対意見の人と喧嘩をするような自分本位の発信になってしまう。このようなことは SNS だけでなく、日常生活の中でも生徒たちは経験している。主人公の気付きから相手の思いを考えると、異なる立場の者同士のコミュニケーションの在り方について考えさせたい。

7 本時のねらい

異なる立場の者同士のコミュニケーションの様子から、相手の思いを想像することを通して、他者の立場に立って考えようとする実践意欲と態度を育てる。

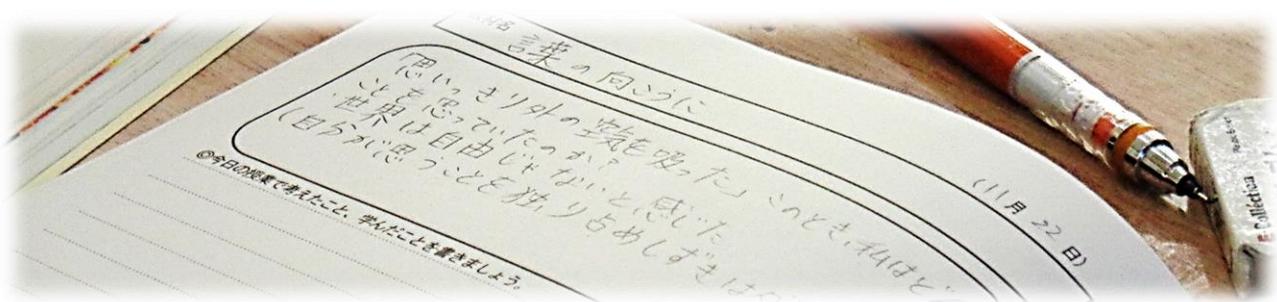
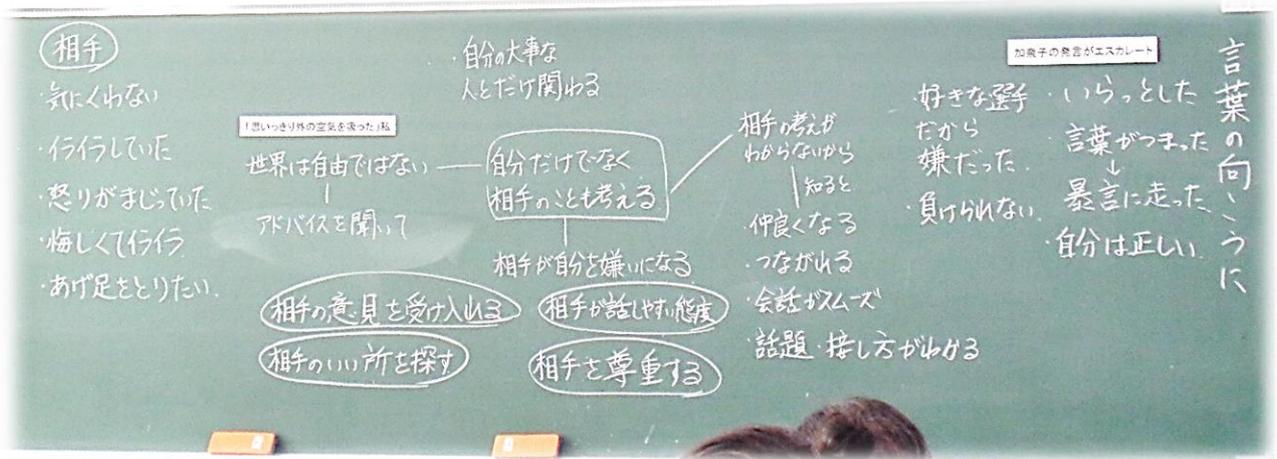
8 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点 T1: 発問 T2: 板書 T3: 個別支援
導入	1 自分を振り返る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○言い争いをしたことがありますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ある。 ・ない。 	※T1T2 で生徒の発言を拾う。

展 開	2 範読を聞く。		<p>※T1:主人公の立場 T2:主人公と反対の立場で範読する。</p>
	3 加奈子の心情を理解する。	<p>○加奈子の発言がエスカレートしたのはどうしてでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ非難されるのかわからなかった。 ・悪口を言われて我慢ができなかった。 ・自分の方が正しいと思っていた。 ・A選手を守りたいと思った。 	<p>※T1T2で生徒の発言を拾う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加奈子は冷静でいられなくなるくらいの感情でいたことを理解させる。 <p>※T1T2で机間指導をして、様々な視点で意見を拾う。</p>
	4 加奈子の気づきを考える。	<p>◎「思いっきり外の空気を吸った」私はどんなことを思っていたらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手は攻撃するつもりでなかったのかもしれない。 ・もしかして、自分は間違っているかもしれない。 ・様々な意見があって、それでいいんだ。 ・相手を批判するばかりではなく、相手の意見や助言を聞くことも大事だ。 ・相手を不快にさせないように、自分の意見を言えばよかった。 ・自分の言った言葉で相手を傷つけてしまうかもしれないから、相手の気持ちを考えて、行動する。 ・違いの中にも共通点があるかもしれない。そこを考えることが大切。 ・相手は自分の想像を超えてしまうこともある。自分本位で考えない。 	<p>【切り返し発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手はどう思っていたのだろうか。 ・相手はどんな考えだと思ったのだろうか。 ・どうして、相手のことを考えることは大事なのだろうか。 <p>*行動の奥にある、心の部分に迫れるように、何度も問い返す。</p>
終末	5 本時の授業を通して、これからの自分の生き方について考えたことを振り返る。	<p>○今日の学習を通して、これからの自分の生き方について考えたことを道徳ノートに振り返りましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、これからのような考え方をもち生きていくことが大切なのか振り返らせる。

<板書計画>

<p>相手の顔や気持ちを考えていなかった</p> <p>正直、反対意見も一理あった</p> <p>冷静になることも大事</p> <p>目的が変わっていたな</p> <p>匿名を利用するのはよくない</p> <p>一旦落ち着く</p>	<p>SNSには気を付けよう</p> <p>「思いっきり外の空気を吸った」私</p> <p>いろんな意見があっていいよね</p>	<p>相手の顔を考えていなかった</p> <p>ハッとさせられた丁寧な言葉が必要だったな</p> <p>もう少し落ち着いたらよかった</p> <p>相手の思いを考えてみる</p>	<p>加奈子の発信がエスカレート</p> <p>相手の顔がみえないから自分が正しい</p> <p>むかついた 負けたくなかった</p> <p>ファンサイトだから イライラしてた</p> <p>加奈子の言葉の向こうの顔</p> <p>まっか あきれている</p> <p>むかついている</p> <p>嫌な顔 怒り心頭</p>	<p>言葉の向こうに</p>
--	--	---	---	----------------



特別の教科道徳学習指導案

指導者名 T1 高木 友樹
T2 谷田翔太郎

- 1 対象 第1学年2組 19名
- 2 日時 令和5年11月22日(水) 第5校時 13:00~13:50
- 3 場所 1年2組教室
- 4 主題名 気高く生きようとする心【よりよく生きる喜び】(内容項目 D-(22))
- 5 教材名 「撮れなかった一枚の写真」(「中学道徳1 きみがいちばんひかるとき」光村図書より)

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

「中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 特別の教科 道徳編」では、【内容項目Dよりよく生きる喜び】について、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと」と示されている。フォトジャーナリストの吉田レイ子さんが感じた、ベトナム戦争当時の葛藤を通して、ヒューマニズムや職業観について考え、人としての自分を知り、自分らしく生きていこうとするための判断力を育てたい。

(2) 生徒の実態

普段から元気がよく、男女仲良く楽しく学校生活を送っている。一方、関わり合うことに苦手意識をもったり、グループが固定化したりするなど、小学校からの人間関係が影響している様子も見られる。例えば、何かを決めるときに自分の意見を言うことが周りにどんな影響を与えるかを考えるあまり、周囲の人に合わせてしまう傾向がある。また、自信がなく、チャレンジすることを恐れる姿勢も見られる。自己の弱さを自覚し、生き方や自己の在り方を考えることが大切であることに気付かせたい。また、自分で選択したことを振り返り、自分の弱さを受け入れ、乗り越えようとするのが大切であることにも気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、フォトジャーナリストの吉田レイ子さんがベトナム戦争の取材中に、ある親子を見て抱いた葛藤を記した文章である。親子の写真を撮ることができなかった吉田レイ子さんはプロのフォトジャーナリストではないと自分を責めたが、帰国後あの写真は撮らなくてよかったと感じた。その時の葛藤や「私は一人の普通の人間でありたい」という言葉に込められた彼女の想いを考えることで「よりよく生きるために大切なことはどのようなことか」を考えさせたい。

7 本時のねらい

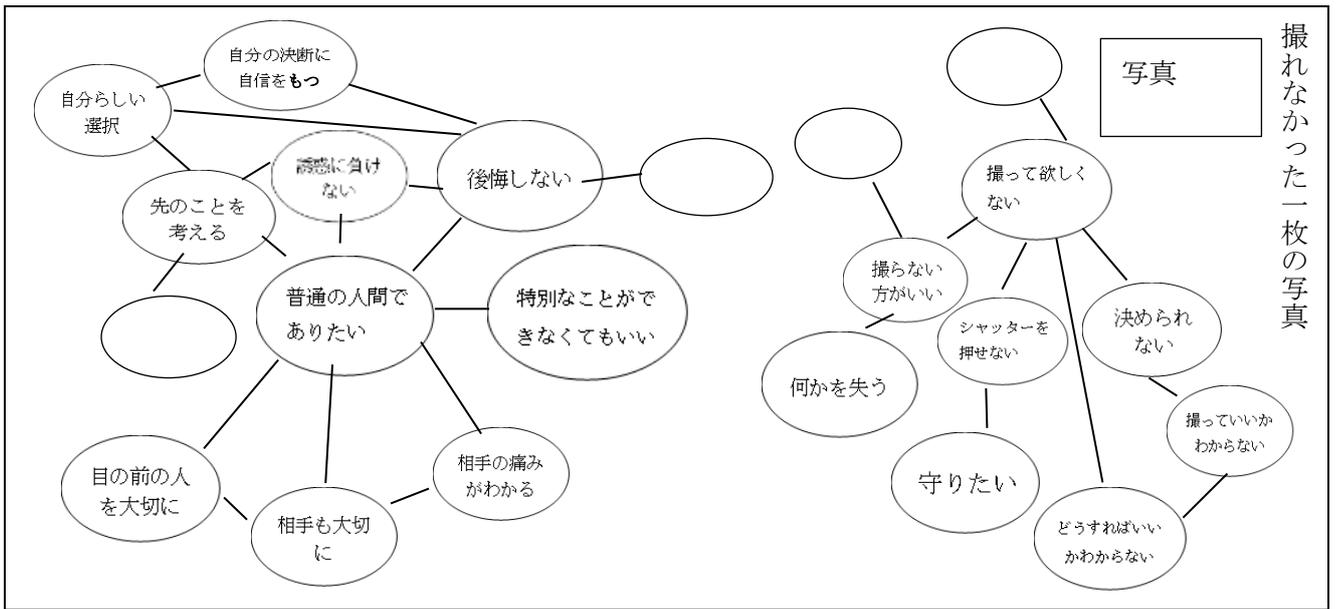
職業、あるいは人としての立場に葛藤する吉田さんの気持ちを考えることを通して、どのような結果になっても、自分で選択したことに対し誇りを持ち、生活をしていこうとする道徳的判断力を育む。

8 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点 T1:発問 T2:板書
導入	1 フォトジャーナリストの仕事とピューリッツァー賞について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしてそのような写真を撮ったの。 ・ この写真見たことある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真にも賞があることを確認させる。 <p>T1:資料を範読する。 T2:資料を範読する。(吉田さんについて)</p>

展 開	2 資料を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容を確認させる。
	3 吉田さんの行動を通して、思いを考える。	<p>○吉田さんはどうしてシャッターを押すことができなかったのだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母が子を隠して、撮って欲しくなさそうだったから。 ・母が子を守りたそうだったから。 ・撮らない方がいいと感じたから。 ・どうすればいいか決められなかったから。 	<p>※T1T2 で役割分担をして、机間指導することにより、生徒の発言を拾い、全体に投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田さんの行動についておさえる。 ・吉田さんの行動には多くの葛藤があることを考えさせる。
	4 吉田さんの立場に立ち、吉田さんの決意を支える思いについて考える。	<p>◎「プロのフォトジャーナリストである前に、私は一人の普通の人間でありたい」とはどういうことだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後悔しないように生きたい。 ・一時の欲や感情で決めるのではなく、先のことを考えた い。 ・自分も相手も思いやりたい。 ・自分がその時に感じたことを大切にしたい。 ・自分らしい選択をしていきたい。 ・自分に誇りをもつ生き方がしたい。 ・自分の弱さを向け入れて生きる ・自分の感情を信じ、他人の気持ちも考えられる。 ・自分の気持ちに恥じないこと ・自分の選択を向け入れて、生きていく糧にすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・先人の気高い生き方から、内なる自分に恥じない生き方をするために必要なことについて考えさせる。 <p>【切り返し発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッターを押せなかったのは、どんなことを考えたからだろう。 ・吉田さんってどんな人だろう。 ・普通の人間とはどういう存在？ ・吉田さんはどうしてあの状況と事実を見せられたことが重要なことだと感じたの？
終末	5 本時の授業を通して、これからの自分の生き方について考えたことを振り返る。	<p>○今日の学習を通して、これからの自分の生き方について考えたことを道徳ノートに振り返りましょう。</p>	<p>※T1T2 で役割分担をして、様々な視点で意見を拾い、全体に投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、これからどのような考え方をもち生きていくことが大切なのか振り返らせる。

<板書計画>



撮れなかった一枚の写真



特別の教科道徳学習指導案

指導者名 T1 仙石 義生
T2 光枝 祐人
T3 山本久美子

- 1 対象 第2学年1組、3組 計28名
- 2 日時 令和5年11月22日(水) 第5校時 13:00~13:50
- 3 場所 2年1組教室
- 4 主題名 「違いを尊重する」【相互理解、寛容】(内容項目 B- (9))
- 5 教材名 『桃太郎』の鬼退治(「中学道徳2 きみがいちばんひかるとき」光村図書より)

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」では、【内容項目 B 相互理解、寛容】について、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自ら高めていくこと」と示されている。

人にはそれぞれ、自分のものの見方や考え方があり、個性がある。相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することが大切であり、自分自身も他者も、それぞれのものの見方や考え方にとらわれ、過ちを犯しやすい人間であると深く理解することで、自分と異なる他者の立場や考え方を尊重することができる。寛容の心をもつことで、とがめだてしないで人を許し受け入れ、他者のよい面を積極的に認める心情を育成したい。

(2) 生徒の実態

全体的に学習や行事ごとに積極的に参加する生徒が多く、それぞれ自分なりの意見や考えをしっかりと持っている。しかし、自分の意見や考えに少し自信が無く発表することが苦手な生徒や、考え方が幼く他者の立場や心情を考えることが苦手な生徒も一定数いる。また、幼少期より同じ集団で育っていることもあり、固定化された人間関係がなかなか変わらない現状もある。そこで、多面的に物事を見て自分が他者と異なってもよいということを理解し、お互いの思いを出し合ったり折衷案を考えたりすることで、合意形成を図ろうとする心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、前半は昔話の「桃太郎」で、後半は鬼の子の立場から桃太郎を捉えた坂田寛夫の詩「鬼の子守唄」で構成されている。一度は読んだことがある「桃太郎」を異なる目線から考えることで、それぞれの立場があることを理解したり考えたりすることができる。ただし、あくまで「相互理解、寛容」の学習なので、後半の鬼の子の気持ちに寄り添いすぎないように両者の目線から冷静に考えさせたい。

7 本時のねらい

一方的な物事の見方や捉え方で判断するのではなく、それぞれの個性や立場を尊重して、多面的に物事を見て考えることで相互に理解し、お互いを尊重する心情を育てる。

8 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点 T1：発問 T2：板書、机間指導 T3：板書、机間指導
導入	<p>1 「桃太郎」の話を読む。</p> <p>2 桃太郎の鬼退治が正しかったのか考える。ロイロノートでそれぞれの意見を賛成→青、反対→赤 とし提出箱で集約し、理由もできれば書く。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○桃太郎の鬼退治は、正しいと思いますか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいと思う。鬼が悪いことをしたのだから。 ・宝物を取り返したから正しい。 ・正しくないと思う。取り返した宝を村に持ち帰って持ち主に返していないから。 	<p>T1：机間指導と発問 T2：「桃太郎の鬼退治」の範読 T3：机間指導</p> <p>・鬼退治が正しかったかどうか自分の考えを持たせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">鬼退治をそれぞれの立場から考えてみよう</div>		
展開	<p>4 「鬼の子守唄」を読む。</p> <p>5 ディスカッション形式で「桃太郎」、「鬼」の立場で考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○桃太郎の鬼退治の結末はめでたし、めでたしだったのでしょいか？</div> <p>桃太郎の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪者の鬼を退治できたからめでたし。 ・鬼退治をしないといつまでも鬼は同じことをしたからめでたしだと思う。 <p>鬼の視点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼の子がかawaii そうな思いをしたからめでたしじゃない。 ・めでたしでないと思う。痛めつけなくても他にやり方があったと思う。 	<p>T1：机間指導・発問・切り返し T2：机間指導・切り返し T3：「鬼の子守唄」の範読・切り返し</p> <p>・「鬼の子はかわいそうだが、そもそもなぜこんなことになってしまったのだろうか？」というような切り返し発問も行い、鬼の子に寄り添い過ぎないようにする。</p>
	<p>6 お互いを尊重するために何が必要なのか考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">◎一方的なめでたしめでたしを生まないために、どんなことが必要だったのでしょうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことが大切。何か事情があるかもしれないから。 ・相手がなぜそんなひどいことをしたのか一度考えてみる。 ・相手の事情を想像してみる。 	<p>・「なぜそれが大事なのか」「それが無いとどうなるか」を何度も問いかける。</p> <p>・行動や表面的な回答に対して切り返し発問でその心情や考えを問う。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・噂だけで物事を判断するのはよくない。相手を知ろうとすることが大事。 ・自分の思いもきちんと伝えてみる。 	
終末	7 本時の授業を通して、これからの自分の生き方について考えたことを振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○今日の学習を通して、考えたことを道徳ノートに振り返りましょう。</p> </div>	<p>※T1、T2、T3 で机間指導をする場所を役割分担し、様々な視点で意見を拾い、全体に投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、これからのような考え方をもって生きていくことが大切なのか振り返らせる。

〈板書計画〉

<p>めあて <u>鬼退治をそれぞれの立場から考えてみよう</u></p> <p>○桃太郎の鬼退治は、めでたしめでたしだったのか。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">桃太郎の 写真</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">青</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼が悪いことをしたから ・宝物を取り返したから ・鬼退治をしないといつまでも鬼は同じことをしたと思うから ・悪者の鬼を退治できたから ・鬼がこれ以上悪さをできなくなったから 	<p>◎一方的なめでたしめでたしを生まないため必要なことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合う一何か事情があるかもしれない ・相手がなぜそんなひどいことをする必要があったのか一度考えてみる ・相手の事情を想像してみる ・相手の個性を認める
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">鬼の写真</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">赤</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り返した宝を村に持ち帰って持ち主に返していないから ・話し合うこともせずいきなり鬼を倒したから ・殺さなくてもほかにやり方があったのでは ・鬼の子がかわいそうな思いをしたから ・鬼の子が成長して復讐しに来るから 	



特別の教科道徳学習指導案

指導者名 T1 二谷 亮輔
T2 小谷美佐子

- 1 対象 第3学年1組 31名
- 2 日時 令和5年11月22日(金) 第5校時 13:00~13:50
- 3 場所 3年1組教室
- 4 主題名 ルールやきまりの意義【遵法精神、公德心】(内容項目 C- (10))
- 5 教材名 「二通の手紙」(「中学道徳3 きみがいちばんひかるとき」光村図書より)

6 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」では【内容項目 C 遵法精神、公德心】について、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」と示されている。人間は社会集団に属し、人々と関わりながら生活している。社会の中で人々の利益がぶつかり合い、対立が発生すると社会集団としての秩序と規律が崩れてしまう。「法やきまり」があることは社会集団が秩序を与え、対立を防ぐことにもつながっている。また、社会の規律と秩序を守ることによって、自分や他者の自由や権利が守られている。しかし、人間はその時の感情に流されて、きまりを破ってしまうこともある。きまりを守ることの難しさに触れつつ、きまりの意義について考えることで、規律ある安定した社会の実現に努めようとする実践意欲を養いたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、身の回りや学校のきまりなどを守って、協力したり助け合ったりしながら日々の生活を送ることができるようになってきた。例えば、修学旅行に向けた取組では、ルールや持ち物について全員で検討し、声を掛け合いながらより良い修学旅行になるよう行動してきた。その一方で、「自分の思いを優先してしまう」「周りがきまりを守っていないから守らない」などの姿が見られる場面がある。また、幼少期から同じ集団で育ってきていることもあり、固定化された人間関係が変わりにくい。そのため、自己主張や目立つことを嫌ったり、自分の意見を言えずに周りに合わせた行動をとってしまったりする場面も多い。これからより広い社会の中で生活をしていく上で、自分や他者の権利を守るためにも法やきまりの意義について主体的に考え、自分たちの社会をより良いものに変えていこうとする実践意欲を育てたい。

(3) 教材について

動物園の職員として数十年働いていた元さんが毎日のように動物園に訪れる幼い姉弟に同情し、園の規則を知っていながら、規則を破って入園させてしまう。後日、幼い姉弟のことを思って元さんがとった行動に対して、「母の手紙」と「動物園からの手紙」の二通の手紙が送られてくる。元さんが手にした二通の手紙を通して、心の葛藤から生まれる規則を守ることの難しさや規則が何のためにあるのかといった法やきまりの意義について考えさせたい。

7 本時のねらい

規則を守ることが、自分や他者を守ることにつながるということを考えさせ、それらを進んで守るとともに、規律ある安定した社会の実現に自ら努めようとする実践意欲を養う。

8 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点 T1：発問 T2：板書
導入	1 資料を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・ T1：範読する。 ・ T2：手紙を範読する。
展開	<p>2 受け取った二通の手紙から元さんが学んだことを考える。</p> <p>3 ルールやきまりの意義について考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◎二通の手紙を受けとって元さんが初めて考えさせられたことは何ですか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりは守らなければならない。 ・ 子どもたちだけで入園させたことは優しさではない。 ・ 安全に対する考えが甘かった。 ・ その時の感情に流されずに正しい判断をすべきだった。 ・ 何のために規則があるのか改めて考えさせられた。 ・ 自分の想いを優先させてしまったことへの後悔があった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ルールやきまりは何のためにあるのだろう？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対立やトラブルを避けるため。 ・ 秩序を守るため。 ・ 自分や他者の権利を守るため。 	<p>※T1T2で役割分担をして机間指導することにより、生徒の発言を拾う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情に流されて規則を破ってしまう弱さに目を向けつつ、規則の意義やそれらを守ることの大切さについて考えさせる。 <p>【切り返し発問】</p> <p>T1：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この動物園の規則は何のためにあるのか？ ・ なぜ、子どもたちだけで入園させてはいけない規則があるのか？ ・ なぜ、職場を去る際に晴れ晴れとした顔をしていたのか？ ・ 二通目の手紙は「何」に対する処分？ ・ 園の規則は何のためにあるのか？ <p>T2：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元さんのおかげで子どもたちは救われたのではないか。 ・ 子どもの気持ちを無視してもいいのだろうか。 ・ ルールを守ることで、悲しむ人が出るのなら、ルールを破ってもいいのではないか。
終末	4 本時の授業を通して、これからの自分の生き方について考えたことを振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○今日の学習を通して、これからの自分の生き方について考えたことを道徳ノートに振り返りましょう。</p> </div>	<p>※T1T2で役割分担をして、様々な視点で意見を拾い、全体に投げかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を振り返り、これからどのような考え方をもって生きていくことが大切なのか振り返らせる。

特別の教科「道徳」の質的転換をめざして

～京都府下全校でのアンケートをもとに～

京都府中学校教育研究会道徳研究部会

1 はじめに

本研究会では、「主体的に深く考える道徳科の創造」～語り合い学び合う授業を目指して～という研究主題を掲げ、研究を進めてきた。令和元年度から実施された「特別の教科 道徳」から5年目を迎え、京都府下の各中学校では様々な取組が行われてきた。また、コロナ禍においてGIGAスクール構想が前倒しとなり、タブレット端末を活用した実践事例も多く見られた。学習指導要領にもある通り、道徳教育は「特別の教科 道徳」を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである。今後、「特別の教科 道徳」の時間をさらに充実したものとするために、生徒と教師に対して行ったアンケートの中から見えてきたものについて、報告を行う。

2 道徳アンケートについて

(1) 実施について

- ・調査目的：道徳教育のより一層の充実に向けて、生徒と教師の実態を把握し、今後の指導方法の工夫改善等に活かす。
- ・調査対象：令和4年度京都府下中学生1年～3年(22,706名)
京都府下中学校の道徳推進教師、及び道徳教育部担当教師
同様のアンケートを令和元年、平成29年にも実施しており、令和元年(以下、前回とする)に行ったアンケート結果と同様の設問での比較を含めて報告する。

(2) 調査内容

調査項目(生徒対象)	調査項目(教師対象)
設問1 道徳的価値の自覚と他者と対話し協働する意識	設問1 生徒の「考え、議論する」道徳科の工夫
設問2 設問1の解答理由	設問2 教育活動全体を通して行う道徳教育の工夫
設問3 「考え、議論する」道徳科の授業の実感	設問3 設問2の具体例
設問4 設問3による心情の変化	設問4 道徳科におけるタブレット端末の活用への課題
設問5 印象に残った内容項目	
設問6 道徳科におけるタブレット端末の活用	
設問7 道徳科におけるタブレット端末の充実度	
設問8 設問7の具体例	

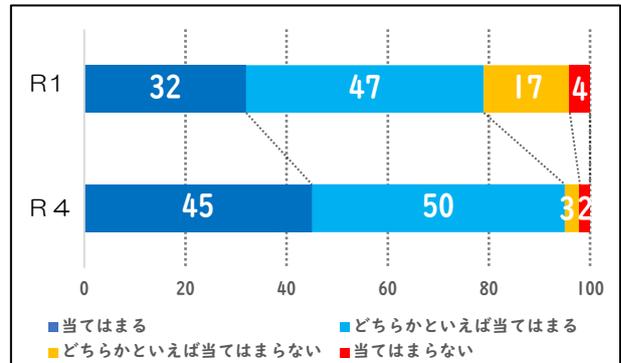
(3) 生徒アンケート結果より（以下、グラフ内の数字はパーセント）

「設問1」

「道徳科の授業では、自分のことに当てはめて考えたり、まわりの人の意見からさらに考えが深まったと感じたりしたことがありますか。」

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は合わせて95%と、前回の79%から大きく増加した。肯定的に回答した生徒の割合が9割にのぼることから、道徳的価値の自覚と他者と対話し協働する意識をもって道徳科の授業を実感している生徒が多いことがわかった。

グラフ1 設問1のアンケート結果



「設問3」

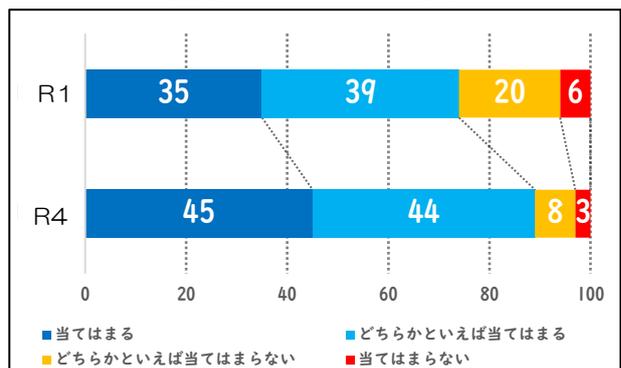
「道徳科の授業では、まわりの人と話し合ったり、議論したりすることは毎時間ありますか。」

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒は合わせて89%であり、この設問でも前回の74%から大きく増加した。

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める「考え、議論する」道徳科の授業を生徒が実感していることがうかがえる。

しかし、アンケートからは、自分の意見を言うことに苦手意識がある生徒も見られた。タブレット端末を積極的に活用することで、「意見が言いやすい」または、「グループワークがしやすい」という意見も見られたので、苦手意識の克服、活発な話し合い活動、そして「考え、議論する道徳」の活性化にICT機器を有効に使うことができるのではないかと考える。

グラフ2 設問3のアンケート結果



「設問5」

「これまで学んできた教材の中で、どのような内容が強く印象に残っていますか。当てはまるもの全てを選んで教えてください。（複数回答可）」では、

- ・自分で考え、判断・行動し、その行動に責任をもつこと。
- ・思いやりの心をもって人と接し、支えてくれる人に感謝すること。

など、道徳の内容項目の「A—主として自分自身に関する事」次いで「B—主として人との関わりに関する事」が多数意見としてあげられた。

反対に、

- ・法や決まりの意味を理解し進んで守るとともに、権利を大切に、安定した社会の実現に努めること。
- ・自分も社会の一員であることを自覚し、より良い社会の実現に力を尽くすこと。

など、道徳の内容項目の「C—主として集団や社会との関わりに関する事」が少数であった。各校で作成している年間指導計画における内容項目のバランスにも着目する必要がある。

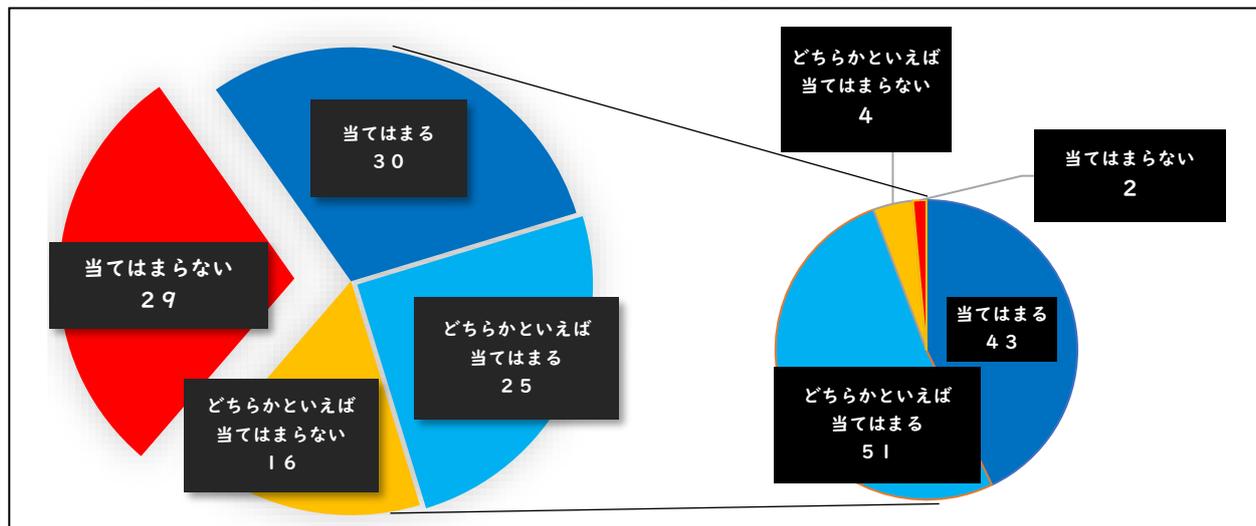
「設問6」

「道徳科の授業では、タブレット端末を使った学習をしていますか。」

「設問7」

「道徳科の授業でタブレット端末を使った学習は、あなたの考えを深めるために役に立っていると思いますか。」という設問に対しては以下の結果となった。

グラフ3 設問6のアンケート結果（左）と設問7のアンケート結果（右）



前回のアンケートでは、タブレット端末が導入されておらず、同様の設問がなかったため、比較はできなかった。なお、設問7については、設問6で「当てはまらない」を選択した生徒以外に行った。設問7より、生徒にとってタブレット端末の活用は考えを深めるツールの1つとなっていることが、顕著な結果として出ていたものの、設問6についてタブレット端末活用の割合が低いことも示されている。

道徳科におけるタブレット端末の活用については、活用事例を各地域で紹介することで積極的な活用を推進していきたい。また、これらの設問については、次回アンケートにおいても同様の設問を設けることで、さらに細かい分析ができるよう今後も経年比較していく必要がある。

(4) 教師アンケート結果より

「設問1」

『『特別の教科 道徳』の授業の中で、生徒の考えを深めるための工夫の具体』では、大きく4点にまとめられた。なお、この設問については、前回のアンケートから大きな変化は見られない。

① 教材について

生徒の状況に近い題材を選び、授業への関心を高めている。また、内容をわかりやすくするために映像や動画などの視覚的教材を用いて、内容理解を促している。他にも、AともBとも選びがたい葛藤教材をできるだけ扱うようにし、生徒が自分自身と向き合えるような教材を取り扱っている。

② 導入・提示の工夫

内容項目をもとに、どんな価値にふれるかを考えて授業の構成を行っている。また、生徒の実態に合わせて、具体的に自分たちの生活場面を例にあげて導入を行っている。

③ 発問の工夫

発問数を2つ程度にして、中心発問に時間をかけるようにしている。中心発問は、事前に何度も検討を繰り返し、生徒が自分自身と向き合えるものと考えている。また、考えを深めるために、教師の

主観による切り返しをしたり、生徒から出た発言をすぐに肯定したりするのではなく、生徒の反応を見ながら、多面的・多角的な視点から切り返し発問をしている。主人公の気持ちを問うような発問ではなく、ねらいとする道徳的価値に迫る内容にしている。また、多くの意見を取り入れるために全員の生徒に発言させることもある。

④ 意見の交流

考えを深めるために、自分自身に向き合う時間を十分に設けている。その後、ペア、小グループ、全体と集団の輪を広げ、発言しやすいようにしている。また、発言が苦手な生徒もいるため、タブレット端末を活用して、無記名で意見を画面に表示し、全体で共有するというものもしている。意見の交流の際にはタブレット端末を活用していることが多く、学習支援アプリを使用すると、全員の意見がすぐに確認でき、グループでの交流も瞬時に行うことができる。さらに、対立意見が出た場合には、その場でアンケートをとることができるといった、様々なタブレット端末の活用が見られた。また、後日に、道徳通信を配付するなどして、意見の共有や自身の考えを振り返る時間を設定している。

「設問2」

「教育活動全体を通して行う道徳教育の工夫の具体」については、以下の内容があげられた。

別業を活用し総合的な学習の時間や特別活動と道徳の授業を関連させることで、相互に道徳の内容項目を意識しながら授業を行っているという意見が多く見られた。教科の授業でも同様に、美術科の作品は1つたりとも同じ物がなく、それぞれに尊重されるべきものであることや、社会科での歴史上の人物の思想、時代背景の変化による価値観の変容などを取り扱っているという意見も多くあった。また、日頃の学校生活のなかで、道徳的な行いがあれば、学級や学年のなかで共有したり、問題が発生した場合には子どもたちと一緒に考えていたり、授業以外の生徒との関わりについても、道徳教育を意識して指導にあたっているという意見もあった。

一方で、少数ではあるが、「特別なことは行っていない。」や「日常の業務に追われ、工夫できるほどの教材研究の時間を割けない。」という意見も見られた。

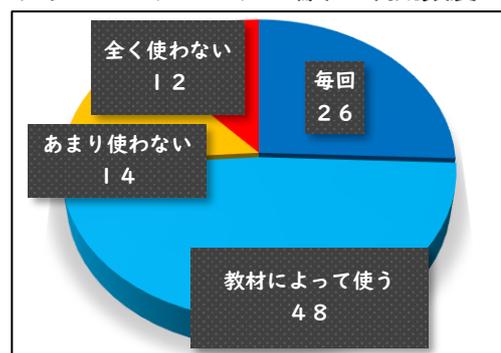
以上のことより、多くの教師が道徳教育を意識して教育活動を行っているということがうかがえる。

しかし、少数ではあるが、「何も行っていない。」という意見もあることから、教師の「道徳教育」についての認識や意識に差が生じているのではないかと考えられる。各校で作成している年間指導計画や別業で再度確認し、校長の方針のもと、道徳教育推進教師を中心に、全教師が教育活動全体を通して道徳教育を行うことが必要であると考えられる。また、各校の学校教育目標や育てたい生徒像を教師全員で共有した上で、道徳科の授業改善にあたることで、より充実した道徳教育を行うことができると考えられる。

「設問4」

授業でタブレット端末を多くの教師が積極的に活用していることがわかる。活用方法として一番多かったのは資料の提示、その次に意見の交流であった。また、タブレット端末の活用により、教材によっては生徒の議論が深まったり考えが広がったりという意見が多く、効果的に活用できていることが分かる。

グラフ4 タブレット端末の利用頻度

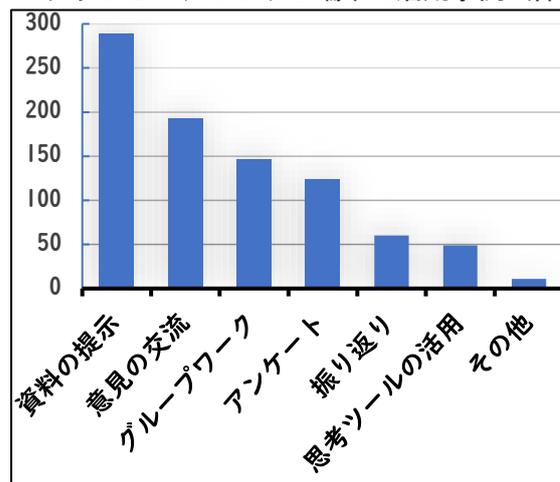


しかし一方で、タブレット端末を活用した授業の課題や不安について、様々な意見が寄せられた。単純に効果的な活用方法がわからないという意見や、タイピングに差が生じてしまうこと、機械トラブルなどで思うような授業展開にならないという意見、道徳で利用できるデジタル教材を充実してほしいという意見があった。

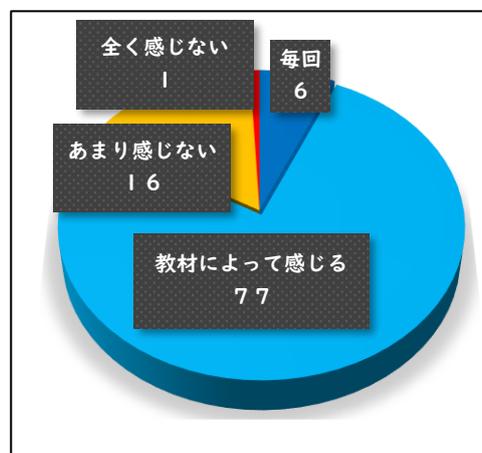
「タブレット端末での意見交流をすることにより、気持ちの交流が問一答のような簡素で味気ない物になってしまうときがある。議論することや友人の顔や声、その場の空気感などを大事にした授業を行うことも必要である」との意見も多く見られた。また、タブレット端末よりも紙に書く方が、意見が深まることもあるという意見や、「活用することが良いことで、活用しないことは不出来である」というような風潮が感じられることに対して、疑問をもつ意見もあった。

これらのことより、タブレット端末の使用方法によっては、深く考え・議論するといったことがおろそかになっていると感じている教員もいる。意見が書きにくい生徒にとっては、良いツールかもしれないが、使用方法に関して、どの場面でのような効果を期待して使用するのが大事だと感じられた。タブレット端末を使うことが良いことではなく、道徳の授業としての視点で、効果的な活用方法の模索が必要だと考えられる。

グラフ5 タブレット端末の活用事例（件）



グラフ6 タブレット端末の活用による生徒の考えや議論の深まり



3 おわりに

アンケートを踏まえた上で、以下のことを次年度以降の取組課題とする。

1つ目に、授業研究の充実である。アンケートを経年比較したところ、道徳的価値の自覚と他者と対話し協働する意識をもっている割合が増加していた。この結果から、普段から実施している道徳科の授業が充実してきていることがうかがえる。さらなる道徳教育に対する意識をもつためにも、これからは各校の道徳教育推進教師を中心とした指導体制の中で、質的転換を伴う授業改善の視点をもつことが必要である。特に中心発問をできるだけ1つに絞ること、そして最後には生徒が教材から離れて「考え、議論する」授業を展開していけるよう研究授業を積極的に行うこと、そのための時間の確保に努めていくことが喫緊の課題である。

2つ目に、さらなる道徳教育の充実に向け、チーム学校として道徳科を推進していくことである。そのためには、学級担任以外の教師とも協力して行うことが肝要である。一人の生徒の変容を複数の教師が見守りつつ、最終的に学級担任が様々な方法を組み合わせて学習状況や道徳性に係る変容を見取る必要がある。その際、タブレット端末を有効なツールの1つとして今後も活用を進めていきたい。



京都府中学校教育研究会 道德教育研究部会

「令和5年度 研究紀要及び実践事例集」

令和6年3月 発行